



演歌歌手  
いちかわ ゆきの  
市川 由紀乃さん

東日本大震災以降、福島演歌塾主催のコンサートを国見町で開催したことがきっかけで、国見町を訪れ演歌を通して国見町に元気を与えている。また、全国各地のコンサート会場などで国見町をPR。平成28年末の紅白歌合戦出場の際には、国見町でも大きな盛り上がりを見せた。

### いい歌をみなさんに届けたい

平成26年にキャンペーンで国見町を訪れました。当時はホールが仮庁舎だったので大研修室にステージを作って歌わせていただいたのを今でも鮮明に覚えています。

音楽の力や歌うことで少しでもみなさんの笑顔や元気を取り戻すことができたらの思いでしたが、逆にみなさんから私が元気をもらい、もっとがんばろうと思いました。

平成29年には道の駅国見あつかりの郷で1日駅長をさせていただきました。応援大使ということでみなさんにより親近感を持って声をかけていただき、自分で名付けたデザート「市川桃乃」「国見桃風」の商品化や直売所でとうもろこしのタイムセールをやったのはいい思い出です。

東日本大震災からもう10年、まだ10年なのかといろいろと考えさせられる10年かと思います。大きな壁にぶつかり苦しみや悲しみがあつたとしても、その先には大きな幸せや喜びがあると信じています。

みなさんいろいろな思いがあるかと思いますが、歌手としてこれからもいい歌をみなさんに届けていきたいと思っています。



平成29年6月に道の駅国見あつかりの郷で1日駅長を務めた市川さん



ジャズピアニスト  
きしの よしこ  
木住野 佳子さん

国見町観月台文化センターにあるピアノ「ベーゼンドルファー」を高く評価していただき、これまでに国見町でコンサートを多数開催。県北中学校吹奏楽部の生徒と一緒に演奏するなどの企画も考えてくださり、ピアノを通じて国見町を応援している。

### ベーゼンドルファーの歴史とともに歩めたことに感謝

美しい自然と景観、そして美味しいものに溢れている国見町ですが、何と云っても私にとって一番なのは観月台文化センターのホールとベーゼンドルファーというピアノです。

私は20年近く前から観月台文化センターでコンサートをさせていただいていますが、東日本大震災で傷ついていたこのピアノを震災の2年後に仮設住宅にいらっしゃるみなさんの前で演奏できた事は忘れられません。

その後、ホールの復活コンサートをさせていただいたのも大切な思い出になっています。

この観月台のベーゼンドルファーの歴史と共に歩んで来ることができた事に心から感謝の気持ちでいっぱいです。

未だ震災の復興にご尽力されている中、コロナという厳しい時代になってしまいましたが、また観月台のあの暖かく美しい音色のベーゼンドルファーを演奏できる日を楽しみにしています。



平成27年12月に観月台文化センターホールリニューアルオープンのコンサートで演奏する木住野さん

### 国見町を笑顔にしたい

震災当日私は事務所で仕事をしていました。突然の揺れに何もできず呆然としていました。

私たち商工会青年部は経営者の家に生まれた若者の集まりでそれぞれ家業があります。震災直後からそれぞれの家業に応じた復興作業に追われることになりました。

そんな中で商工会内では例年通りのイベント開催の是非が問われていました。しかし当時の青年部長の山崎敦さんが「こんな時だからこそ俺たちがやるしかないんだよ!」のひと言に反対する部員は一人もいませんでした。

内容を縮小させながらも手作りのように開催した夏祭り。小学5、6年生に希望の絵を描いてもらい商店街の街灯への掲示。そして国見町を代表するグルメを作ろうと開発した国見バーガー。みんな復興作業に追われながらも生まれ育った国見町のために必死に活動しました。



小学生のメッセージを掲示

震災から10年。私たち青年部は常に全力で走ってきました。そこにはいつも国見町を笑顔にしたいという思いから。

これからも私たちは全力で走り続けます。すべては「かけがえのない人たちとかけがえのない地域のために」



国見町商工会青年部長  
さいとう ひとし  
齋藤 仁志さん



国見バーガー

震災から半年が過ぎたころ、「この町を何とかしたい…」と商工会青年部が集まりました。「地元グルメを作っちゃおう」ということから誕生したのが「国見バーガー」です。

テレビに出たことから人気に火がついた総菜屋さんの「サバの味噌煮」。町で一軒、おいしいパン屋さんの「パン」。給食で味は保証済み。そして青年たちの「思い」から生まれた「国見バーガー」は、地元はもちろん、各地のイベントでも長い列ができる人気となりました。

その思いを引き継ぎ、現在は道の駅国見あつかりの郷の名物の一つとなっています。